

2016年、新年になりました。本年もよろしくお願いいたします。

新年といっても、学校は年度で動いていますので、まだ15年度は続いています。これからは受験のシーズン。授業では最後のまとめのシーズンです。その意味で学校での新年は、今の生徒諸君が合格したり豊かな成果をあげたりして卒業、進級したあとの、4月にあるのかもしれませんが。

ネットワークでも、1月23日には冬の経済教室（東京）、30日には冬の経済教室（札幌）とイベントが続きます。気持ちは新たに、活動はしっかり継続という新春にしたいと思います。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

12月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

冬の経済教室、年次大会の案内、部会の案内を紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

12月に行われた活動を報告します。

■名古屋部会（No.4）を開催しました。

日時：2015年12月12日（土）15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟3階 303講義室

主な内容：参加者12名。

- (1) 野間敏克先生（同志社大）より、ネットワークや各部会の活動についての報告がありました。
- (2) 東京部会から参加した、杉田孝之先生（千葉県立津田沼高）より「2つの授業設計から考えた経済学習の可能性」というタイトルで、法と経済の観点から働くことの意義やあり方について考える授業設計についての紹介と質疑が行われました。
- (3) 大阪部会から参加した大塚雅之先生（大阪府立三国丘高）より「経済分野における思考力の育成を目指した教材開発」のテーマで、少子高齢化と社会保障に関して、大学入試問題を踏まえた、理論的思考力を育成する授業実践の紹介と質疑が行われました。

- (4) 名古屋部会からは、樋口健彦先生（名古屋市立富田高）より高等学校の政治・経済のシラバスに基づいたカリキュラムについての紹介と、中根大志先生（名古屋中・高校）より中学校の公民の定期試験問題と、授業の中で発せられた生徒の質問についての紹介がありました。
- (5) 各先生の提案を踏まえて質疑応答を行い、最後に、水野英雄先生（椋山女学園大）より名古屋部会の過去1年間の活動の総括と今後の参加者の増加に取り組みたいとの発言で終了しました。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya004report.pdf>

■東京部会（No. 80）を開催しました。

日時：2015年12月16日（水）18:30-20:30

場所：日本大学経済学部本館本館 1階 A11 教室

主な内容：参加者14名。

- (1) 年次大会の内容構成を確認しました。
- (2) 16年夏の経済教室の日程確認を行いました。
8月11日が「山の日」で休日となるため、8月4・5日名古屋、8月8・9日大阪
8月18・19日東京高校 8月22・23日東京中学というスケジュールとすることが確認されました。
- (3) 冬の教室の準備状況・申し込み状況の確認を行いました。
- (4) 部会報告が行われ、12月12日（土）におこなわれた名古屋部会に、部会間交流で杉田先生（津田沼高校）が派遣され、その報告とその時資料が配布されました。
- (5) 教材紹介が二件ありました。
ひとつは、梶ヶ谷穰先生（昭和音楽大学）が監修された「見えないお金の物語」（日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会）です。
もう一つは、教材検討委員会ですすめていた、「アリとキリギリス」（時間の経済学）の教材、「たこ焼き屋」（企業）の教材がほぼ完成したとの報告です。
- (6) 宮尾尊弘先生（筑波大名誉教授）から報告が二件ありました。
一つは、「イシュー（論点）中心の経済学の学習例」です。
冬の経済教室前半の主要部分である「イシューから始める学習」について、アメリカの大学で実際に取り上げた具体例の概要を紹介され、質疑がおこなわれました。
もう一つは、「シェアリング・エコノミー（共有経済）を経済学で考える」です。

宮尾先生が、ここ数年アメリカで急速に拡大している「シェアリング・エコノミー」に関する紹介を行い、その経済学的な分析と問題点をまとめて提示されました。

(7) 今回は、宮尾先生が二つのテーマを報告されるなど、新しい教育法、新しい経済の動向に注目する、よい機会となりました。終了後、懇親会を行い、一年の活動を振り返りました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo080report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

* イベントの予定です。

■ 冬の経済教室 in 東京を開催します (既報)

好評だった、宮尾尊弘先生 (筑波大学名誉教授) による経済教室を、日本取引所グループと共催で開催します。

テーマは、「次期学習指導要領を先取りする：学習のあり方と「公共」の教え方」で、主体的に学ぶ態度と課題解決型の能力の育成を目指す学習の在り方と、公共経済学を教える方法の二部構成です。

イシュー中心の教授法の提案、新科目として構想されている「公共」にも対応できるような公共経済学の実践提案など、中高の実践に役立つ内容を紹介します。

それを受けて、第三部で現場教員からのコメントと討論を行います。

日時： 2016年1月23日(土) 14:30~16:30(受付開始14:00~)

場所： LMJ 東京研修センター

東京都文京区本郷1-11-14 小倉ビル3階

(JR 総武線 水道橋東口より6分)

内容、参加方法などの詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2016Tokyofuyu/keizaiR.pdf>

■ 冬の経済教室 in 札幌を開催します (既報)

夏の経済教室の成果を生かした冬の経済教室を、札幌で日本取引所グループと共催で開催します。

大杉昭英先生のアクティブラーニング論、小巻泰之先生の国民所得の解説、塙枝里子先生の授業提案が行われます。

日時： 2016年1月30日(土) 13:00~17:00

場所： キャリアバンク セミナールーム
札幌市中央区北5条西5丁目7番地
sapporo55 5階（JR札幌駅紀伊国屋のビル）
内容、参加方法などの詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2016Sapporofu-yukeizai.pdf>

■年次大会を開催します（既報）

日時： 2016年3月19日 13:00～16:40（受付12:30より）
場所： 同志社大学 寧静館
内容、以下のような内容です。

第一部：新しい経済教育の実践提案

高等学校を中心に、アクティブラーニング、選挙の経済学、直接金融・間接金融に関する斬新な実践提案をしていただき、教材としての有効性を確認するという企画です。

第二部：高校入試問題を通した中学経済授業の改善提案

最近の高校入試問題には、かなり意欲的なものが出てきています。学校現場では避けられない入試対策を経済の授業改善につなげる道を考える企画です。

参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/Sympo/20160319Rsymposium.pdf>

* 定例部会のお知らせです。（開催順）

■京都部会（No. 31）を開催します

日時：2016年1月15日（金）19時00分～21時00分
場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室
内容、参加方法の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto032flyer.pdf>

■名古屋部会（No. 5）を開催します

日時：2016年2月6日（土）15時00分～17時00分
場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟3階 303講義室
名古屋駅より、地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車6番出口より左へ徒歩5分
内容、参加方法の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya005Rflyer.pdf>

■大阪部会（No. 47）を開催します

日時：2016年2月6日（土）18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト(予定)

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17 階

内容、参加方法の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka47flyer.pdf>

■東京部会 (No. 81)を開催します

日時：2016 年 2 月 25 日(木) 19:00~21:00

場所：日本大学経済学部 本館 2 階中会議室 (予定)

内容、参加方法の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo081flyer.pdf>

【 3 】授業のヒント

■お札から経済を見てみよう

子どもの時の新年はお年玉をもらうのが楽しみだった先生も多いはずですが、あげる方になって大変というのは、少子化の現在、うれしい悲鳴かもしれません。今回はそんなお金にまつわる授業のヒントです。

そういえば、昨年、ジンバブエが通貨として中国の元を法貨として今年 1 月から流通させるというニュースがありました。こんなことがおきるのだという意味ではビックリのニュースですが、お札(紙幣)は経済の授業に関するヒントがたくさんつまっている実物教材です。

(1) お札に書かれている肖像はだれ？

一番シンプルに使うのは、お札に書かれてい肖像を当てさせるクイズをやることです。日本では、現在、福澤諭吉、樋口一葉、夏目漱石ですが、かつては高橋是清が 50 円札で登場していたこともあります。

経済と関係する人物では、イギリスの 20 ポンド札にアダムスミスが使われていることが特筆されます。ただし、今年中には別の人物に変わってしまうようで残念です。ほかに、経済学に関連しては、旧東ドイツでマルクスが、旧ソ連でレーニンが使われていましたが、社会主義体制の崩壊とともに消えてゆきました。ただ、毛沢東は今でも中国元で使われていますから、社会主義の看板をおろしていないぞというメッセージですね。

これからお札に登場する経済学者がいるかどうかを予想させるのはちょっと難しすぎる問いかもしれませんね。

(2) ハイパーインフレの実物貨幣を持ち込んで数字を確認する

ジンバブエのドルはネットで購入できます。100 兆ジンバブエドルが売られていました。数字の 0 を数えさせるとともに、価値のないお札が値段をつけて売られるという意味を

考えさせても面白いかもしれません。

ドイツのハイパーインフレの時期の紙幣のコピーは、教材用として教科書会社などから提供されています。これも教室で回して、数字の0の数を数えさせてハイパーインフレを実感させることができます。

(3) 絵柄からその国の文化や価値観をつかむ

これは世界史や地理の授業での使い方もかもしれません。お札の肖像は政治家が多いのですが、歴史的人物や文化人もいます。新興国で、経済建設を優先している国は橋やダムなどの社会資本を絵柄にしている国もあります。お札の絵柄からはその国が何を大切にしているかが浮かび上がります。

ちなみに、あまり使われていない日本の2000円札が何を絵柄にしているか、先生方も実際に確認してみてください。日本にとって大切なものがでてくるはずです。

(4) お札の本質と役割を考えてゆく

ここまではつかみの部分でした。ここからが本格的な展開になります。紙幣がなぜ使われているのか、これはしっかり考えさせる価値のある問いになります。兌換紙幣ではないのだから、中央銀行はどんどんお札を印刷してもかまわないのか、もしそんなことをやったら何か起きるのか、そもそも中央銀行はどんなしくみで紙幣を発行しているのか、現在の日銀の金融緩和はどんな仕組みで、どんな効果がでているのか、為替変動をなくすにはみんなが同じ通貨をつかえばいいのか、などなどお札から様々な設問が飛び出します。これらは、授業本論での重要な構成要素になります。

お札という入り口から金融の本格的な展開まで、生徒や学校の実態に合わせていろいろ工夫してみてください。

最後に問いを一つ。冒頭にあげたジンバブエの紙幣の売り手の口上です。

「経営者にあげたら大喜びされました。この数字の収入がありますよ」という願掛けとして、お店に飾ってある」というものです。この口上をどう考えるか経済的な見方をもとに。生徒と一緒に考えてみてください。(新井)

【 4 】 編集後記 (みみずのたはこと)

改めて、明けましてお目出とうございます。今年は申(猿)年。「見ざる、聞かざる、言わざる」の三猿とは反対の、「しっかり見て、しっかり聞いて、しっかり言ってゆく」年にしたいと思います。

とにかく人間は、自分の見たいものだけを見て、発言しがちです。そうならないためにも、自戒を込めつつ、問いつつ学ぶ一年としたいと思います。ちょっとまじめすぎる新年のたはことでした。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお
手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====
◆◇

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇